

令和4年度「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト  
におけるアンバサダー等と連携した効果的な情報発信等業務

チーム住環境「心のふるさとづくり」  
～都市一局集中の解消・地域循環共生圏の実現～

# 本レポートの役割

対象：  
地域循環共生圏プラットフォーム参画者などを想定

目的：  
「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」アンバサダーによる一人ひとり1社1社の持続可能な社会づくりの実現に向けた普及啓発事業であり、本チーム住環境においては、都市一局集中の解決・地域循環共生圏の実現に向けた展開を行うための企画の取りまとめを目的とする。





# 構成

# 構成

---

①前提情報(事業方針・事業理念・事業内容など)

②本事業実施内容の報告

③テロワージュ東北について

④具体連携方法（案）



## ① 前提情報

# 地域循環共生圏とは

---

足もとにある資源を活かしながら地域の課題を解決し、  
**環境・社会・経済の好循環を目指す**

地域資源を活用して

環境・経済・社会の統合的向上を実現する事業を生み出し続けるとともに、  
例えば都市と農村のように地域の個性を活かして  
地域同士で支え合うネットワークを形成していくという  
「自立・分散型社会」を示す考え方です。  
地域が抱える様々な課題を、環境を切り口に、  
パートナーシップのもとで統合的に解決していくことから、  
ローカルSDGsとも言います

# 地域循環共生圏とは

## 地域循環共生圏のイメージ

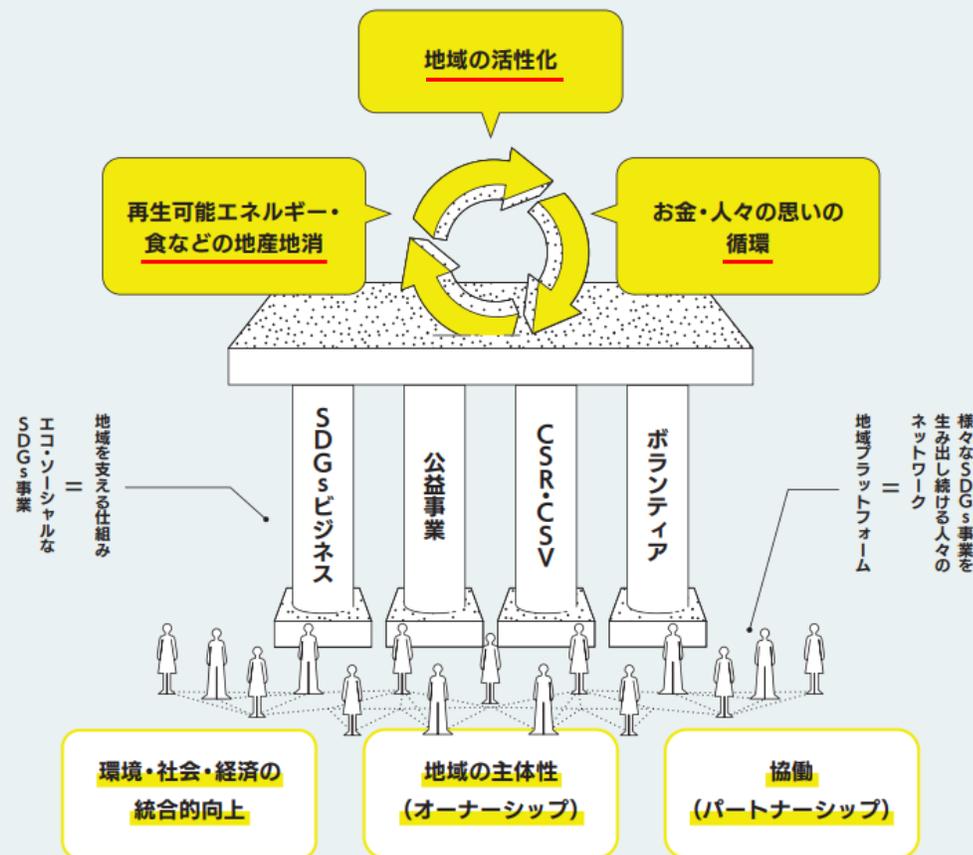


各地域が各々の資源や特性を活かした強みを発揮しながら自立・分散型の社会を形成します。更に、自然の恵みや、人材・資金などの社会・経済的なつながりによって、ほかの地域とも広域なネットワークを築き、ともに支えあいながら地域が元気になる。そして、私たちの暮らしは森・里・川・海の連関からもたらされる豊かな自然環境に支えられていることを基本とする。これが地域循環共生圏の描くイメージです。

# 地域循環共生圏とは

地域循環共生圏を目指す  
地域のイメージ

自立した地域 = 地域づくりを持続できる地域・課題を解決し続けられる地域



地域には、SDGs事業を担う「事業主体」、その事業主体を支える「サポーター」、これらの人をつなぐことで、地域プラットフォームを維持・運営する「地域コーディネーター」が存在し、SDGs事業を生み出し続けることで課題を解決し続け、自立した地域を維持しています。

# 「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」とは



地域循環共生圏を目指す取組の一つであり、30名を超える森里川海アンバサダーと連携し普及啓発の役割を担うプロジェクトである。

このプロジェクトは国民全体で「自然資源（森里川海）を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目指す。

「森里川海を保全・再生し、都市部に住む人たちも含めて国民全体で森里川海の保全とそれに関わる人たちをつなげて、支えていく」プロジェクトである。



資料：環境省

# 「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」アンバサダー（一部抜粋）



# 「チーム住環境」心のふるさと作り 応援プロジェクト

## チーム住環境 心のふるさと作り 応援プロジェクト

  
富永 美樹さん

  
藤田 承紀さん

  
高橋 万里恵さん

  
奥村 奈津美さん

  
TAROUTさん

  
長沢 裕さん

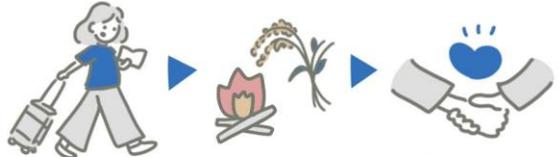
**Vision**



人と自然がつながり、  
人と人がつながることで  
みんなが心のふるさとを  
持つような社会の実現

**Project**

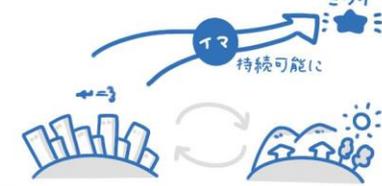
「暮らす旅＝その土地の人とつながる旅」  
の提案 (旅の価値観を変える)



生まれたところだけがふるさと×  
ふるさと＝自分で作ってもいい◎という価値観を  
人々が持つような世の中になるような発信

**Purpose**

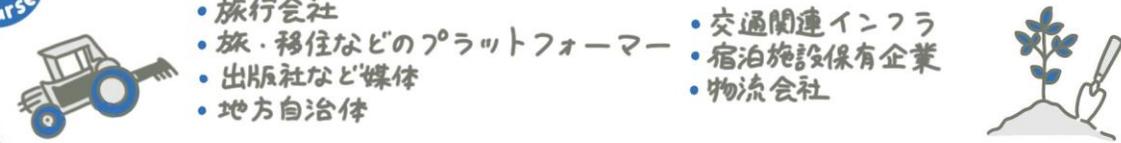
大都市圏への人口集中を  
緩和させ、人と自然・地方と都市が  
それぞれの持続可能な形で  
共生できる社会への変革を促す



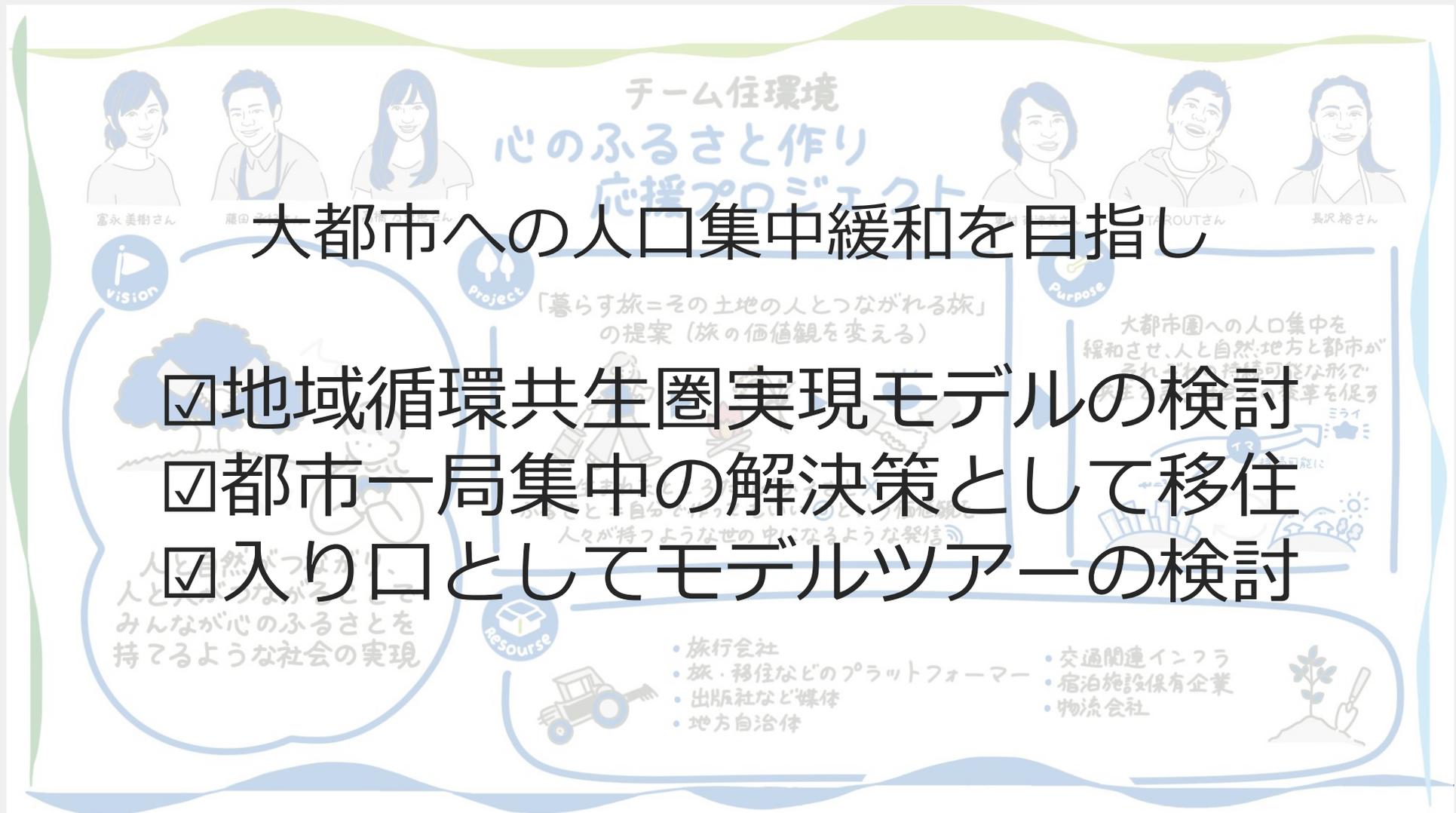
**Resource**

- 旅行会社
- 旅・移住などのプラットフォーム
- 出版社など媒体
- 地方自治体

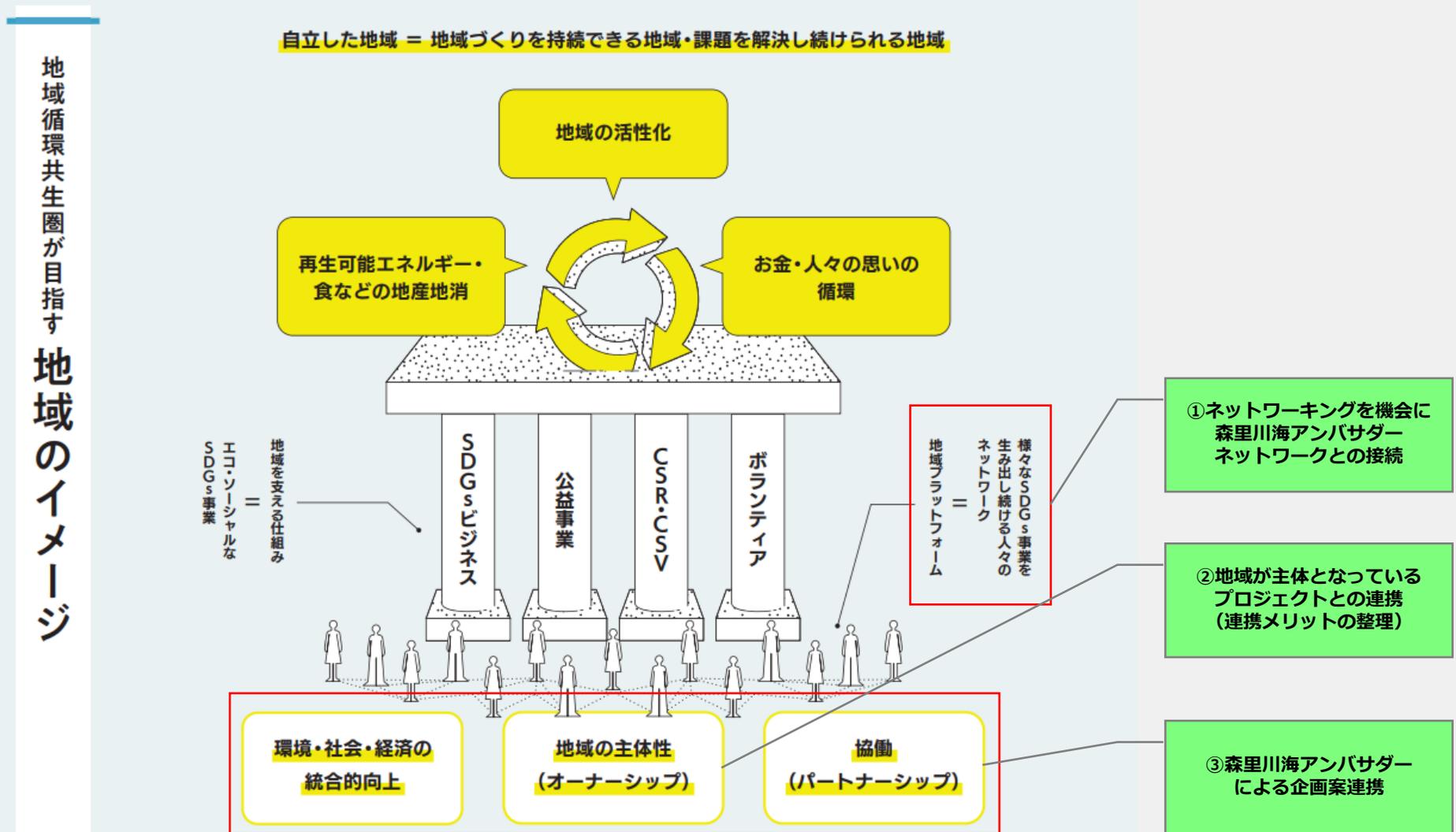
- 交通関連インフラ
- 宿泊施設保有企業
- 物流会社



# 「チーム住環境」心のふるさと作り 応援プロジェクト



# 「チーム住環境」心のふるさと作り 設計ロジック①



地域には、SDGs事業を担う「事業主体」、その事業主体を支える「サポーター」、これらの人をつなぐことで、地域プラットフォームを維持・運営する「地域コーディネーター」が存在し、SDGs事業を生み出し続けることで課題を解決し続け、自立した地域を維持しています。

# 「チーム住環境」心のふるさと作り 設計ロジック②

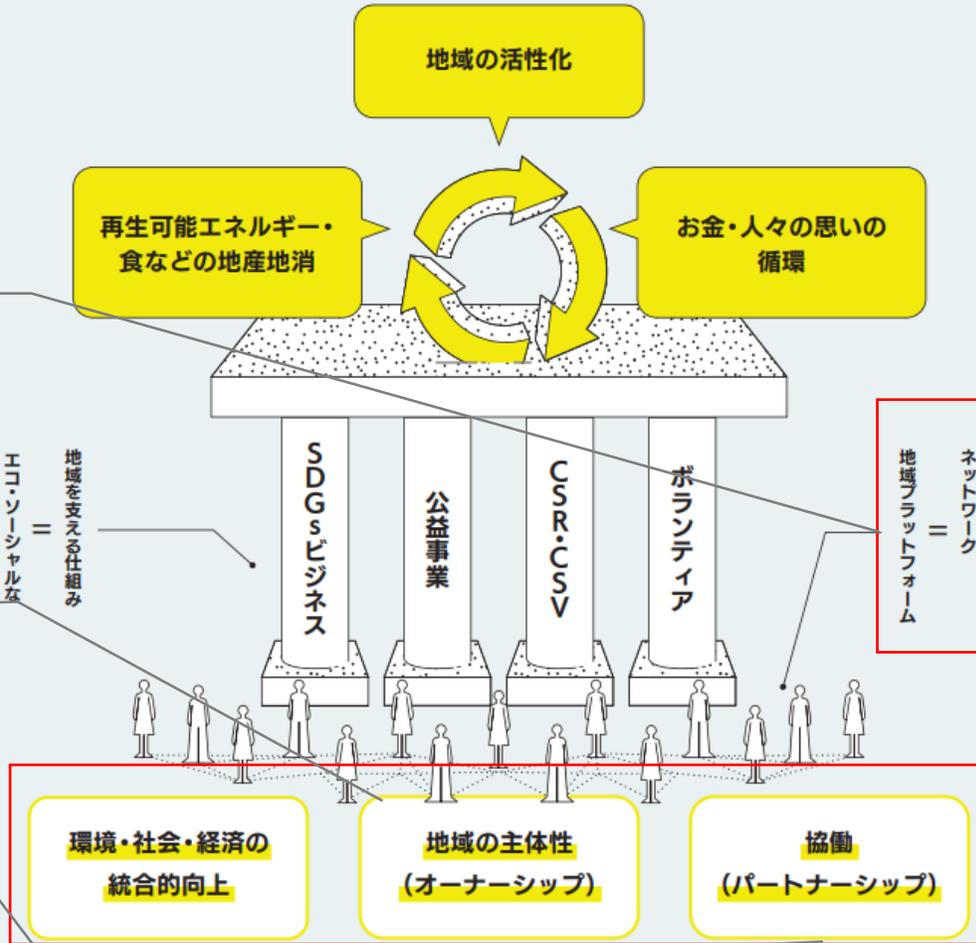
自立した地域 = 地域づくりを持続できる地域・課題を解決し続けられる地域



① ネットワーキングを機会に  
森里川海アンバサダー  
ネットワークとの接続

② 地域が主体となっている  
プロジェクトとの連携  
(連携メリットの整理)

③ 森里川海アンバサダー  
による企画案連携

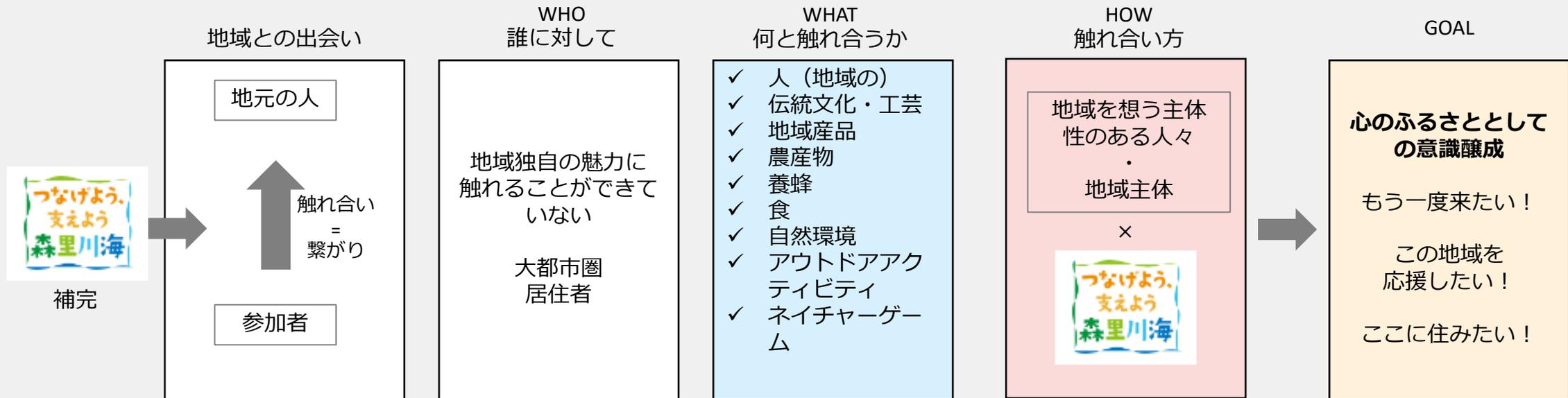


「心のふるさとづくり」  
=  
「その土地の人と  
つながれる旅」  
の提供

ターゲット  
地域独自の魅力に  
触れることが  
できていない  
大都市圏  
居住者

# 「チーム住環境」心のふるさと作り 設計ロジック②具体想定

「心のふるさとづくり」 = 「その土地の人とつながれる旅」





## ②本事業実施内容の報告

# 仙台秋保ネットワークイベント実施概要

---

## 【開催概要】

**目的：**  
自然と街が隣接する仙台秋保エリアにて、地元の人、仕事、自然などの資源を体験し、地域循環共生圏の体現（=都市一局集中の解決）を目指し、エリアを選定し、モデルケースおよび、「こころのふるさと作り」の自走プログラムを検討する目的

**日時：**2022年11月29日（火）-11月30日（水）

**場所：**宮城県 秋保エリア（自然と街が近接・アンバサダーメンバーの5名がゆかりのあるエリア）

**内容：**仙台秋保エリアの地域資源の体験および、分散型社会づくりに向けた地域資源（人）（キーマンや生産者とネットワーキングおよび情報交換を行い、分散型社会創出のテストケースとして取りまとめを行う。

## ネットワーキング参加者：

旅行事業者/地元のキーマン/フィールド提供者/生産者（農畜林など一次産業従事者）/アクティビティ提供者/地域おこし協力隊/行政/環境省・EPO/JEEFなど

# 仙台秋保ネットワークイベントコンテンツ

---

①秋保の地の食材を使った食のプレゼンテーション（森里川海プロジェクトアンバサダー藤田承紀監修）

## ②インプット

- つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト概要紹介 -環境省 地域循環共生圏の考え方のご紹介
- 心のふるさとづくりのコンセプトの紹介（10分）
- JEEF（公益社団法人日本環境教育フォーラム） 情報提供（10分）
- 小沢晴司先生 情報提供（10分）
- たびむすび稲葉さま・ 情報提供（15分）

## ③交流

- 各参加メンバー自己紹介
- 活動紹介

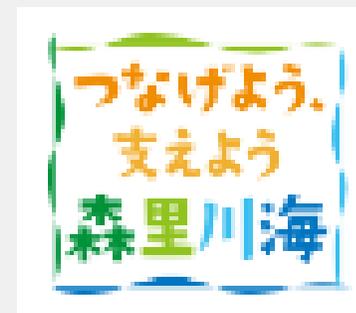
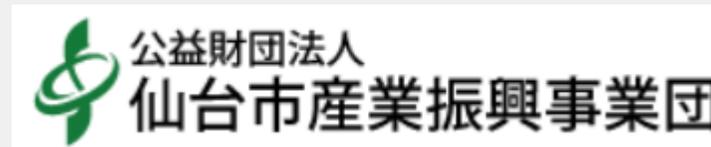
## ④ディスカッション

都市一極集中の解消を目指し、地域が持続可能（人と自然・都市と地方）であるために必要なこと  
↳秋保の強みと課題について議論

## ⑤アウトプット

- ①現状の課題（不足する点について）と理想
- ②解決策アイデア・必要な連携 ※この部分はそれぞれA4 1枚の紙に記載しみんなに発表

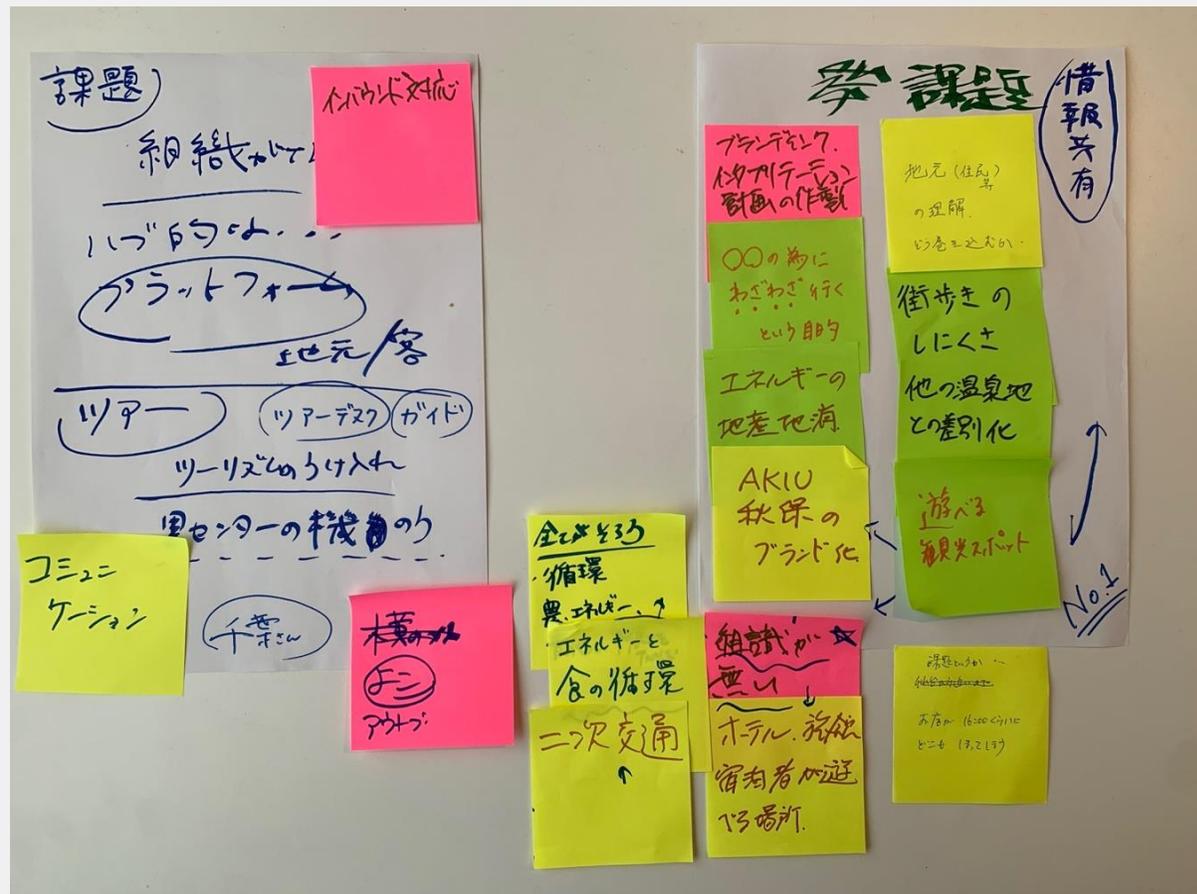
# ネットワーク参加団体一覧（17団体以上）



# 仙台秋保ネットワークイベント 地産地消の食のプレゼンテーション（一部抜粋）



# 仙台秋保ネットワーキングイベント ワークショップ（一部抜粋）





# 仙台秋保ネットワークイベント ネイチャーゲーム（音いくつ）

---

# 仙台秋保ネットワークイベント ネイチャーゲーム（目玉っち）



# 仙台秋保ネットワークイベント ネイチャーゲーム（葉っぱじゃんけん）



# 仙台秋保ネットワークイベント ネイチャーゲーム（一筆入魂）



「人の魅力」 「テロワージュ」

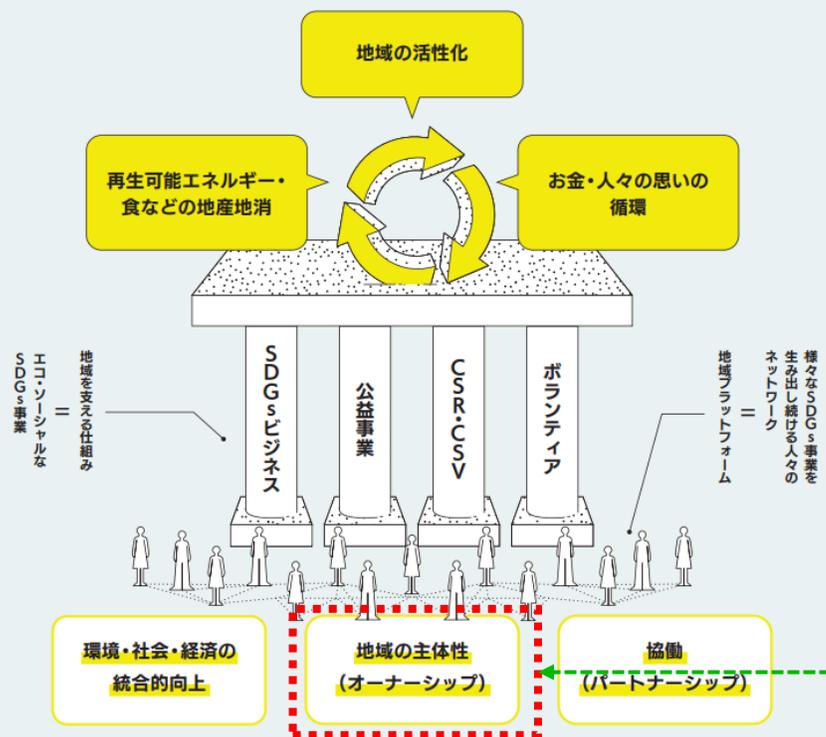
「ネイチャーゲーム」

# 仙台秋保ネットワーキングイベント キーワード

## 「人の魅力」

地域を想う主体性の  
ある人々の存在

自立した地域 = 地域づくりを持続できる地域・課題を解決し続けられる地域



地域には、SDGs事業を担う「事業主体」、その事業主体を支える「サポーター」、これらの人をつなぐことで、地域プラットフォームを維持・運営する「地域コーディネーター」が存在し、SDGs事業を生み出し続けることで課題を解決し続け、自立した地域を維持しています。

地域循環共生圏を目指す  
地域のイメージ

## 「テロワージュ」

”**気候風土と人の営み**”を表す「terroir -テロワール-」と  
”「食」とお酒のペアリング” ”結婚”を意味する  
「mariage -マリアージュ-」を掛け合わせたもの。

※秋保ワイナリー毛利さま発案の造語

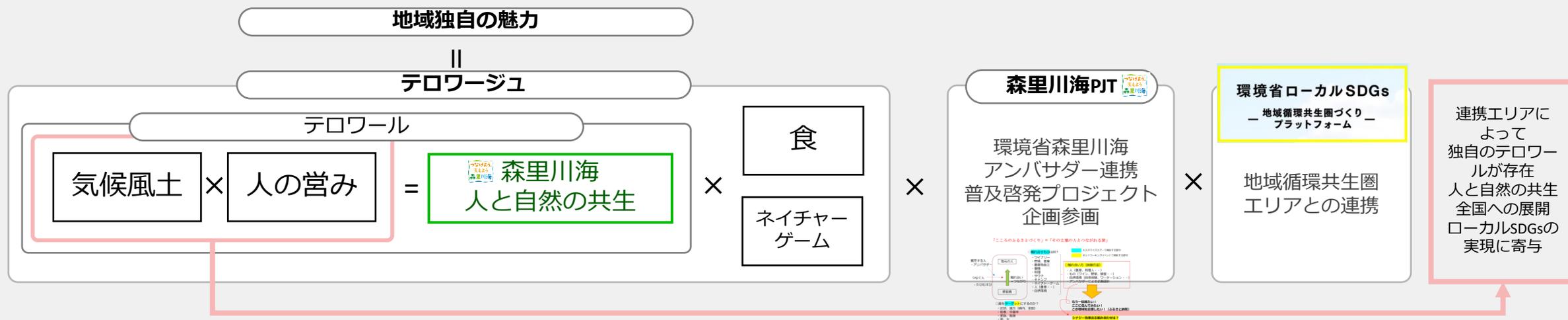
- ◆ 「terroir -テロワール-」 = 気候風土と人の営み  
≡  
森里川海の言語で言う  
「自然と人との共生」の形だと理解ができる。

## ◆ 「食」が「気候風土と人の営み」の理解への入口になる得る

よしきさんプロデュースの地産地消・食のプレゼンテーションが、  
宮城仙台秋保の自然からの恵みである、  
「地域産品」と「人の営み（農産物の生産者）」への  
興味、地域資源の豊かさへの理解を深めてくれた。

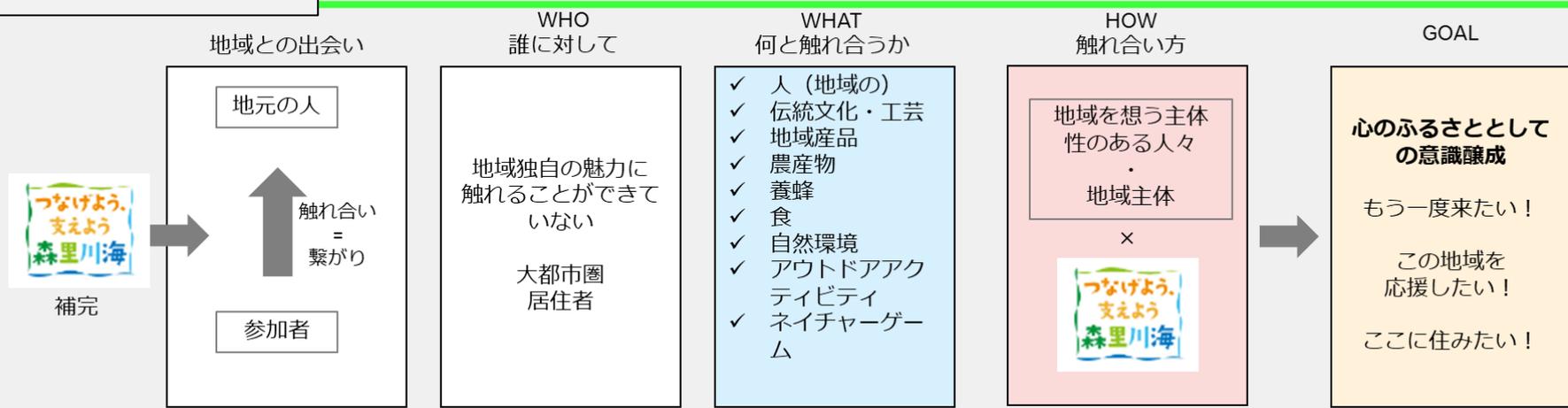
## 「テロワージュ」 × 「森里川海PJT」

地域の気候風土からの恵みである「食」を入口とし、「自然と人の共生」の形を地域独自の魅力として表現することが可能。

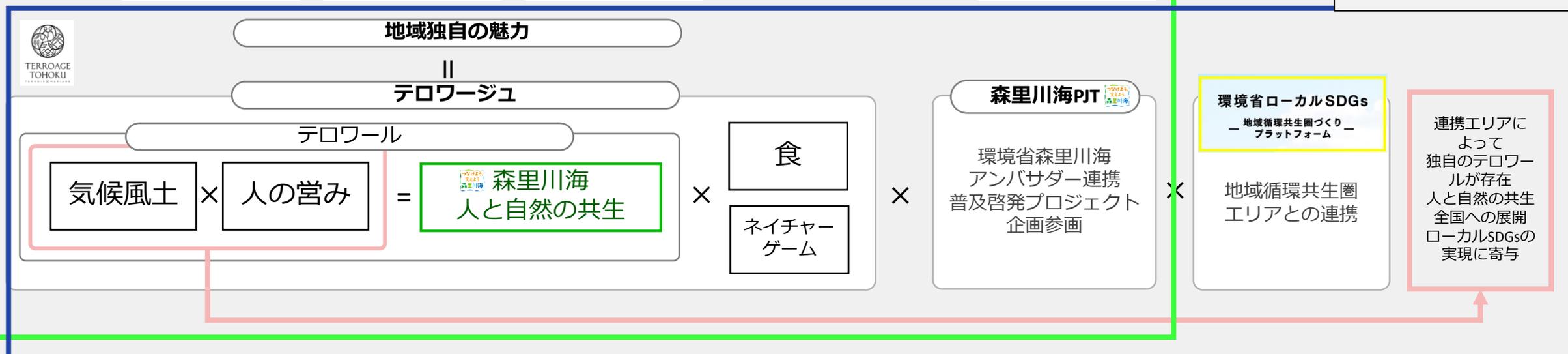


# 次年度自走イメージ

## R4年実施内容



## R5年構想

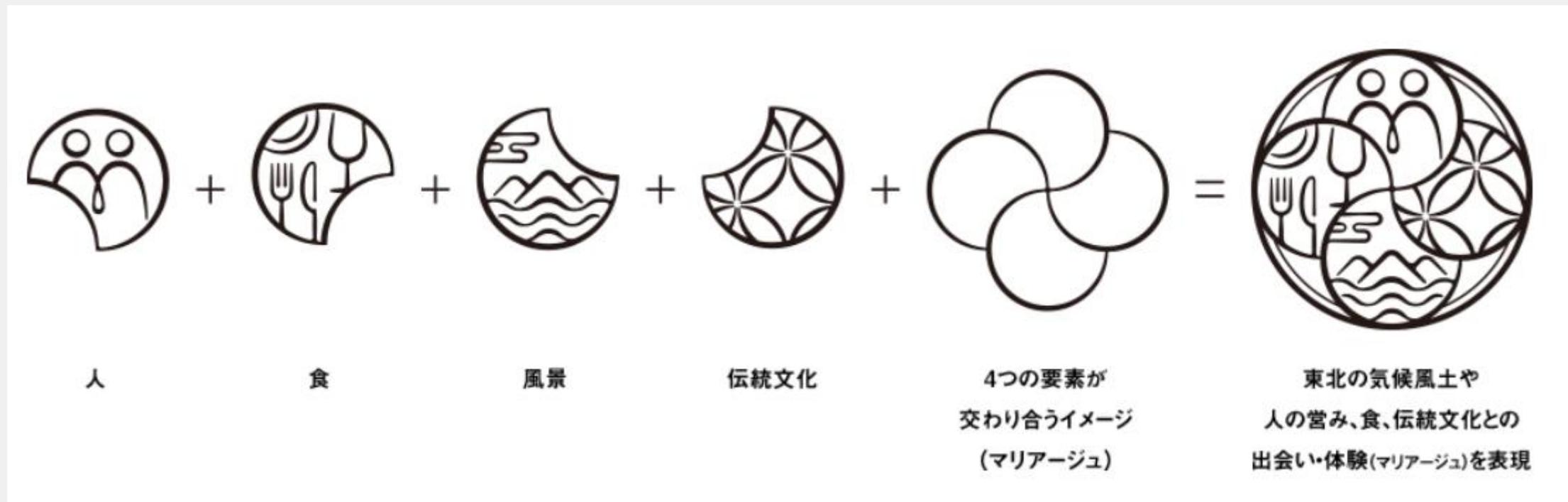


### ③テロワージュ東北紹介

# テロワージュ東北とは

テロワージュとは、気候風土と人の営みを表す「テロワール」と、食と酒のペアリング、結婚を意味する「マリアージュ」を掛け合わせた造語です。

「究極のマリアージュ」は産地にありをコンセプトに掲げ、テロワージュを通じて、東北の人・食・風景・文化の協奏による新しい感動体験を東北から世界に向けて発信していきます。



# テロワージュ東北とは

以下3つを事業の柱に「テロワージュ東北」を核とした東北エリアの食品・観光産業の活性化事業を推進する。

## ①東北製品の新たな魅力発信と新たな販路づくり

首都圏と関西圏での新たな販路づくりと、東北の食に対するファン育成

## ②事業継続のための仕組みづくり

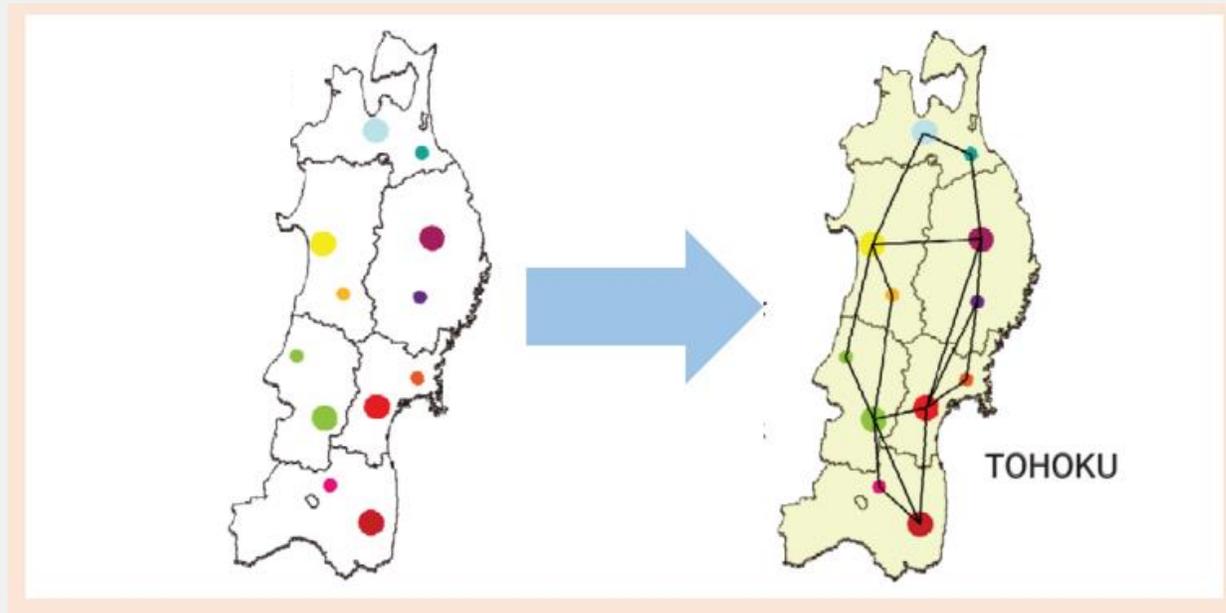
事務局機能、収益構造の構築、パートナーづくりやファンづくりのための施策

## ③次世代の獲得と育成

産学連携や若者・学生等の地域教育の実施による次世代の地域リーダーの育成

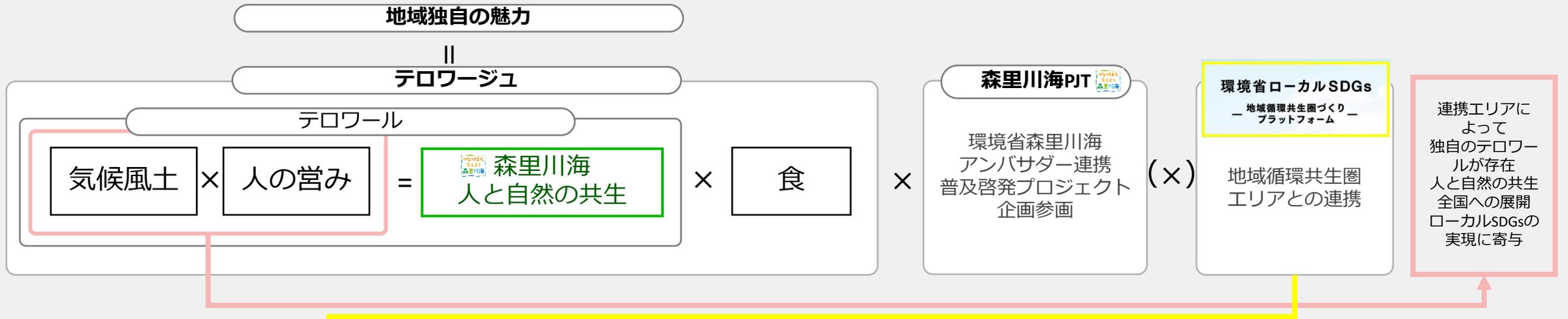
# テロワージュ東北とは

- 「究極のマリアージュ」は産地にありをコンセプトに地域拡大を計画
- 現状実施エリア：秋保 作並 名取



## ④ 具体連携方法（案）

# 具体的連携（案）



岡山県真庭市  
海と里の資源をつなぐ

三重県尾鷲市  
火力発電所跡地から生まれ変わる

岩手県北地域  
北岩手の底力を都市部へ

徳島県鳴門市  
コウノトリが舞う地域づくり

滋賀県湖南市  
未来を創造する支えあいのまちづくり

会津地域13市町村  
暮らしを守る森活プロジェクト

北岩手

滋賀県湖南市  
京都府亀岡市  
岡山県真庭市

福島県会津地域

神奈川県小田原市

三重県尾鷲市

徳島県鳴門市



北岩手産の農林水産物の都市部への流通や、観光客の誘致など、様々な面での連携の可能性も探り始めている。

北岩手の再生可能エネルギーをきっかけとした域内連携および広域連携によって、「森里川海」から得られる自然資源のみならず、大都市の「人材・情報・技術・資金」といった経済的資源の交流や循環を活発化させ、「地域循環共生圏」実現のための「都市と農産漁村」、「大都市と地方都市」連携モデルの形成を目指している。